

熊本県立劇場 伝承芸能調査事業 市町村別データベース(人吉市)

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
1	人吉市	鬼木町	球磨地方の臼太鼓踊り(鬼木)	くまちほうのうすだいこ おどり(おにき)	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年6月26日	10月9日		人吉観光のPRにボランティアで貢献しようと、人吉市の臼太鼓踊り保存会は11日同市の国宝・青井阿蘇神社で伝統の踊りを披露。一緒に写真を撮る参拝客も目立ち、好評だった。踊りは江戸時代に相良藩が戦の士気を鼓舞するために始めたとされる。現在、同市では鬼木、七地の両町に伝承されているが、保存会の活動は鬼木町だけになっているという。ボランティア活動は、同神社の国宝指定を機に、会長が発案し、円バーも快諾。昨年11月の七五三、大みそかに続いて3回目。臼太鼓踊りの人形が登場する人吉駅の「からくり時計」前でも披露している。地元の人吉東小児童を含め、10人が参加。国宝の楼門前に、馬の角をあしらった巨大なかぶとなど独特の衣装をまとった踊り手が陣取り、太鼓や鉦を打ち鳴らしながら、勇壮に舞った。大勢の見物客が拍手を送った。【2009.1.13熊日】 この臼太鼓踊りは、鬼木町の長男によって伝承され、15才になると踊り組に加入し、30才くらいで組を退くとされていたが、現在では変わりつつある。臼太鼓5人(頭1、脇2、関2)、鉦打ち5人、唄い手、旗手、世話人から構成される。演目は、(1)庭入り(頭の庭入り、脇の庭入り、関の庭入り)、(2)唄入、(3)ナカセキ、(4)競合、(5)ひき。なお、太鼓打ちは昭和9年までは、背に幟をさし鉢巻をしめ、カキがこれを囲んでいたという。【熊本県ありのままHP2005】球磨地方を中心に伝承されてきている。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
2	人吉市	七地町	球磨地方の臼太鼓踊り(七地)	くまちほうのうすだいこ おどり(しちち)	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年6月26日	10月9日		由来は諸説まちまちで不明。この踊りの歌が和讃に近いところを見ると、大念仏から出たものであることは、確かであり、相当古いだろう。代々、その部落の青年に継承されるもので、以前は長男でなければ技を伝えなかった程、厳格な不文律を設けられていた。踊りの人員は正しくは18名編成であるが、普通10名で行われる。踊り手は大太鼓をもった頭1人、太鼓をもった関2人、脇5人、鐘5人、唄い手4人、世話人若干名で、衣装は全員そろいの装束、足袋、草鞋、手甲、水牛角尾の兜、関は鍬形の兜、脇は鹿角の兜、鐘打は赤熊をかぶる。【熊本県ありのままHP2005】代々、部落の青年に継承されるもので厳格な不文律をもうけていた。【2001】	【伝統芸能】 風流芸			
3	人吉市	大塚町	人吉市の棒踊り(大塚)	ひとよししのぼうおどり (おおつか)	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年6月26日	5月第2土、 日曜日		明治30年頃、鹿児島から伝次郎という者が尚武の気風を養うため薙刀踊りを大塚地区の椎葉伝蔵外10数名に伝え、その後さらに3つの踊りが伝えられ、現在の形が完成したといわれる。大塚地区の長男によって継承され、踊り手は総員18人、歌い手1~3人で演じられる。全体は、6人1組で6尺棒と長鎌とを打ち合う「棒鎌打分踊り」、6人1組で3尺木刀と6尺棒とを打ち合う「棒と木刀の打分踊り」、4人1組で薙刀と小鎌とを打ち合う「薙刀踊り」、6人1組となって3尺木刀で打ち合う「3尺打分踊り」、の4つの踊りで構成される。踊り手は一振ごとに相手を替え、体をかわしたり、調子を合わせて前後10回打ち合う。歌は、道歌、宮入りの歌、踊りの歌、帰りの歌がある【熊本県ありのままHP2005】人吉市内では田野町と大塚町につたえられている。【2001】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
4	人吉市	田野町	人吉田野の俵踊り	ひとよしたのたわらおどり	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年6月26日	6月15日～10月		田野は鹿児島県境に位置する高原の開拓農村である。この俵踊りは、踊り子10人が輪を作り、長さ30cmほどの俵をやりとりしながら踊るもので、農民が豊作を喜び、感謝の心を表したものとされている。明治の中頃、宮崎県から田野地区にやって来たおよしという老婦人に教えられたという。踊り子(女性)が俵をかきつけて登場し、まず2列横隊に並ぶ。その後円形を描いて俵を手から手に投げ渡しながら輪の中央に順次積み上げ、またその俵を順に手渡して1人ずつつかついで退場する。その間、三味線2人、太鼓1人、鉦1人によるきやかな囃子にのって踊る。衣裳は白鉢巻に大紋の振袖、行燈袴に手甲・脚 となっていたが、近年は変わっている。また踊り子は16～17才の娘とされていたが、現在は同地区の婦人が伝承している。【熊本県ありのままHP2005】 明治30年頃、宮崎県から来た老婦人が教え伝えた。【2001】	区長	人吉市文化係 0966-22-1111		
5	人吉市	田野町	人吉田野の錫杖踊り	ひとよしたのしゃくじょうおどり	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年6月26日			1880年頃、鹿児島県大口から伝わる。現在伝承活動なし。【2001】				
6	人吉市	人吉市	ウンスンかるたの遊戯法	うんすんかるたのゆうぎほう	熊本県重要無形民俗文化財 昭和40年2月25日	不定期		ウンスンカルタ(宇牟須車骨牌)は日本最初の洋風カルタで、江戸時代の初め長崎に渡来した外国船がもたらしたカルタの日本化したものである。長崎に伝わったカルタは中国文化と接して一部中国化し、さらに日本人の好みによって日本化されながら全国に広まった。しかし寛政3年(1791)奢侈禁止令以降は次第に絶滅し、わずかに人吉・球磨に残るだけとなった。人吉地方への伝来については二説がある。①相良22代頼喬夫人(京都賀尾大納言隆尚の娘)が嫁入道具の中に入れて来たというもの(寛文9・1669)、②備前池田家から相良家を継いだ31代長寛が人吉入国の際伝えたもの(明和6・1769)。カルタは5種(バオ・イス・コップ・グール・オール)75枚で、同種が1から9(数札)、他にトランプのキング・クイーンにあたるウンスン・レイ・カバ・ソウタ・ロバイの絵札6枚である。遊び方は8人が2組に分かれ、敵味方が1人おきに車座となり、花札と同じように中央に札を投げて遊ぶ。自分に配られた札を出発点として次々にきまりに従ってその札を出し、次の札を取って行く。その間に各自が勝って自分の手に取めた札を組別にまとめ、その札の多い方が勝である。【熊本県ありのままHP2005】 今日では、全国で人吉にしか残っていない貴重な存在である。【2001】	鍛冶屋町通りの街並み保存と活性化を計る会			
7	人吉市	井ノ口町	井ノ口町の虎踊り		人吉市無形民俗文化財 昭和62年3月31日	不定期		人吉市井ノ口町に伝わる。踊りの中に京都周辺の地名が出てくる。【2001】				
8	人吉市	市内	三十三観音廻り		人吉市無形民俗文化財 平成11年4月27日	3月彼岸～9月彼岸		春秋の彼岸の前後7日間、本尊観音開帳があり巡礼者には茶菓の接待がある【2001】				
9	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	4月5日	相良神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
10	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月8日	青井阿蘇神社	人吉球磨地域の伝統芸能「球磨神楽」が8日夜、青井阿蘇神社の拝殿で奉納された。3～11日まで同神社で開かれた例大祭「おくんち祭」の一環。地元の宮司や市民でつくる熊神楽保存会が、剣を持って舞う「振剣」や、獅子の面を付けて踊り「獅子」など17演目を、締め太鼓や横笛の音色に合わせて踊った。熊神楽は3月、県内の神楽として初めて国の重要無形民俗文化財に指定された。毎年秋から12月にかけて、人吉球磨地域の43の神社で奉納される。【2013.10.12読売】 《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
11	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月15日	五木阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
12	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月15日	免田八幡宮	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
13	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月19日	四浦阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
14	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月25日	多良木菅原神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
15	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月27日	須恵諏訪神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
16	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月28日	薩摩瀬神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
17	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月29日	矢黒神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
18	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	10月30日	岡原霧島神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
19	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月2日	深田阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
20	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月3日	岩野霧島神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
21	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月3日	上村白髪神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
22	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月4日	山田神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
23	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月5日	久米熊野座神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
24	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月5日	井口八幡宮	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
25	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月5日	若宮神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
26	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月7日	岡留熊野座神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
27	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月9日	黒肥地神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
28	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月9日	一勝地阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
29	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月9日	築地熊野座神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
30	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月10日	万江阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
31	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月10日	大無田阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
32	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月12日	神瀬住吉神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
33	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月15日	市房山里宮	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
34	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月15日	渡阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
35	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月15日	山本神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
36	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月18日	久米白木阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
37	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月18日	中神白木阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
38	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月18日	西村神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
39	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月19日	遥拝阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
40	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月20日	川辺厳島神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
41	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月20日	一武八幡宮	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
42	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月23日	木上加茂神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
43	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月25日	槻木菅原神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
44	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月25日	十島菅原神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
45	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月25日	原田菅原神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
46	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月26日	老神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
47	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月28日	皆越白髪神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
48	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	11月29日	岩屋熊野座神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
49	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら		12月1日	安政神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
50	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら		12月1日	赤池菅原神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
51	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	旧11月初卯	中島阿蘇神社	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
52	人吉市	上青井町	球磨神楽	くまかぐら	国重要無形民俗文化財 平成25年1月18日	12月15日	市房山神宮	《演目》元は三十三番あったと言うが現在伝承されているのは、次の十七番のみである。三番神楽、大幣、御泊、地割、扇合、小幣、乙女子、棟方、剣振、岩潜、田楽、笛揃、三笠、神師、大小舞、御前、獅子。《特色》舞は1人舞から4人舞まであり、楽は笛、太鼓、ガク板を用いる。この神楽は、神社の社家により伝承されてきたが、昭和3年から神楽講習会が開かれ、氏子も参加するようになり、上球磨・中球磨で少し違っていたのを統一したという。また、昭和37年に保存会が結成され、青井阿蘇神社に事務局を置いている。【1991】	【伝統芸能】 神楽			五穀豊穡
53	人吉市	西下間町	建築踊り	けんちくおどり		10月9日	青井阿蘇神社	《構成》《特色》【1991】				
54	人吉市	田野町	人吉市の棒踊り(田野)	ひとよしほのぼうおどり (たの)	熊本県重要無形民俗文化財 昭和36年6月26日			明治15年に鹿児島県から伝わる。現在伝承活動なし。【2001】				
55	人吉市	上青井町	青井阿蘇神社例大祭・おくんち祭神幸行列	あおいあそじんじや れいたいさい・おくんち さいしんこうぎょうれつ		10月9日	青井阿蘇神社	神幸行列の起源ははっきりしないが、祭神を乗せた御神輿(しんよ)のうち1基は寛永18年(1641)、相楽家21代頼寛が青赤一対の獅子面などとともに奉納した記録がある。午前10時、8頭の獅子が拝殿から境内に飛び出し、行列の幕が開ける。50年ほど前から御神輿は台車に乗せているが、1200年の節目は氏子らが担いで宮出し。かけ声とともに稜門をくぐった。人吉小鼓笛隊、人言一・二中プラスバンド、子どもみこしを先頭に、神職を乗せた神馬が厳かに進行。あでやかな衣装の稚児、大人みこしが続く。ひよつとこやきつねの面をつけ、踊りながら進む団体も。獅子が勇壮に通りを駆け、無病息災を祈って頭を噛んでもらう親子連れやお年寄りの姿も見られる。人吉城跡横のお旅所では、郷土芸能鬼木の臼太鼓の披露、休憩後神社までおり返す。【2006.10.11.熊日】				無病息災
56	人吉市	上青井町	大寶御注連祭	たいほうおんしめさい		10月8日夜 50年に1度	青井阿蘇神社	ご神木の前にしめ縄を張り巡らせた祭壇を設けて行う祭りで、祭壇の下では夜遅くまで球磨神楽が舞われる。神社が創建された大同元年(806)以来、50年に1度行われてきたと伝わる。しかし、50年前は開催の記録がなく、100年前の明治29年に残された資料を基に再現。大寶御注連は、古式にのっとった特別な祭壇のこと。ご神木のクスノキの前に立てた高さ約10メートルの青竹の上部に縄を巻き、頂上に日、月、星を表す三本の御幣を立て、その下に森羅万象を示す五色の御幣を飾った。さらに八方向にしめ縄を張り下ろし、縄に白い御幣や舟飾りをつるす。青竹のもとには鳥居が立てられ、米俵、焼酎だるを供え、両脇に稲穂や花が生けられた。同神社宮司によると「太古の昔は、神は社にとどらず、特別な日に降臨された。この土地を開いた祖先の神祭りの方法を忘れないよう50年ごとに営んできたのではないか」という。3日に始まったおくんち祭の一環。翌日の神幸行列で祭りはクライマックスを迎える。【2006.10.9.熊日】				

No.	地域	伝承地	名称	呼称	文化財指定	公開日	公開場所	内容	分類	保存団体名	問合せ先	祈願
57	人吉市	九日町	球磨川新調	くまがわしんちよう				昭和初期に人吉市の青年団長の歌詞をもとにレコード化され、廃盤となっていたが、会社経営の山本氏がCDとテープで復活。球磨川新調は、1930年頃、人吉を活気づけようと九日町青年団長の(故)前田十一郎氏が作詞、時雨音羽と佐々紅華の両氏に歌詞の手直しと作曲を依頼、32年にレコード発売された。「飛んで行きや九州相良」で始まる歌詞は、球磨川や人吉城の情景を6番まで表現。「人吉 仲よし 心よしよし」のテンポよいサビが市民に親しまれた。廃盤になった後も根強い人気だった。【2006.10.13.熊日】				
58	人吉市		球磨川舟唄	くまがわふなうた		9月16日	人吉カルチャーパレス	第11回全国大会。球磨川舟唄は、人吉から八代までを下っていた船乗りの心意気を歌った民謡。大会は、人吉球磨の伝統を歌い継ぎ、全国にアピールしようと毎年開いている。【2006.9.17.熊日】				
59	人吉市	九日町	初えびす	はつえびす		1月10日	人吉市中心商店街 夫婦えびす神社	年の初めに商売繁盛を祈願する初えびすが行われる。4年前、現在地に社を建造してから毎年続けており、地元の祭りとして定着。津軽三味線の奉納や餅投げで賑わっている。男女一対の夫婦えびすの木像は、安土桃山時代の1583年、京都の仏師により作られたと伝わる。縁結びと商売繁盛の神様として信仰を集めてきた。戦後、えびす像は町内を点々とし、2003年10月まで近くの寺院にまつられていた。町内会が寄付金を集め、商店街の空地に神社を造営。社は球磨工業高校の伝統建築コースの生徒が作った。以来、毎年初えびすを開いている。【2007.1.11.熊日】				商売繁盛
60	人吉市	城本町	大村古墳まつり	おおむらこふんまつり		7月21日	大村横穴群	国指定史跡、大村横穴群で古代人に扮した子どもらが古墳祭りを披露。まつりは、古代人としてのふともにも、横穴群がある村山大地で起きたがけ崩れの被災者の霊を慰めようと、地元町内会が1983年に始めた。慰霊の法要に続いて、地元の小学生や女性約30人が白い装束を身にまとい、古代人になりきって踊った。【2012.7.23熊日】				
61	人吉市	井ノ口町	虎踊り	とらおどり	人吉市無形文化財	10月9日	青井阿蘇神社	「おくんちまつり」で9年ぶりに復活。かつては、伝統芸能の催しなどで披露されていたが、今は仕事もばらばらで若者も減り、人が集まらない。今回が最後かもという本番、本来必要な銅鑼役2人を欠いた。それでも「伝統を絶やすわけにはいかない」と演舞を披露した24人の踊り手の姿は観衆の心を打った。【2008.10.15熊日】				
62	人吉市		球磨川舟歌	くまがわふなうた		9月3日	人吉カルチャーパレス	球磨川の舟運に従事した船頭によって歌い継がれてきた民謡「球磨川舟歌」でのどを競う15回目の全国大会が行われた。【2011.9.4朝日】				